

美術館に心の安らぎをみる

山本秀麿

一、はじめに

平成六年度の開放講座で「美術館めぐり」を行った。限られた日時のために「北野美術館」と「信州新町美術館」の二館の見学と研修にとどまった。だが、二つの美術館は、そのユニークさにおいて、一見に値する。

近年、美術館学とか、美術館の学芸員などのことが、話題になる。美術館とは何か、美術館の歴史など、調べてみました。

二、美術館とは何か

一般的には、絵画や彫刻などの作品を蒐集、展示、保管する場所をいう。美術館の定義もさることながら、美術館のあり方、問題点について『美術館学入門』（井出洋一郎、平成五年）に、次のように指摘している。

「世の中なにか住みにくいし、ちよつとおかしいからみんな止まってみようよ、と言える人、あるいは勝手に止まってしまえる人が本物の芸術家、アーティストたる要件だと思ひます。……このアーティストの本能的な感覚は、一般人に失われて久しい、洞窟住居時代にはあつた人間のプリミティブな予知能力みたいなものでしょうか。現代社会は人体にとってのビタミン以上に基本的な栄養バランスをとるために、美術に限らず芸術を必要としているのです。そしてその栄養源の要素は、ほとんど美術館に詰まつているというのが私の考えです。……美術館は私たちの感覚をリフレッシュし、現代人の眠つてゐるさまざまな能力をブラッシュ・アップしてくれる所だし、またそうでなくてはなりません。その意味で美術館を訪れることは、疲れた身を海や山の自然に置くことに似てゐるでしょう。

美術館をよくしなければ日本の美術界はよくなりません。文化全体がそうだともいえませんが、日本の美術界は作り手も受け手もあまり商業的になりすぎています。美術館も現代美術を含め高額の名品を買い込むことに精を出し、普通ならとつくに日本の美術館が日本のアート・シーンをリードしてゐなければならぬはずが、相変わらずその重要な使命は欧米の権威に任されてゐます。……美術館は放つておくと国公私立を問わず往々にして自画自賛になつて、象牙の塔に化する體質を持つており、よそからの批判を受けつけたがらないものです。けれども美術館の社会的責任の重さを考えてみれば、運営者は芸術の真理の前に頭をたれて謙虚にならなければならぬ、難しいことですが、自戒を込めて大書きしておきます。」

この文章を書いた井出洋一郎氏は、かつて美術館の学芸員をされたのち、明星大学で教鞭を執られてい

る。また、内部からの、美術館のあり方を示唆したものとして、傾聴すべき提言である。

今や美術館は、芸術家ばかりのものではなくなっている。市民を含め、皆で美術館活動に参加してゆく時代ではなからうか。

三、ミュージアムの語源について

美術館のことを、ミュージアムといっている。英語、ドイツ語も同じ発音である。イタリア語ではムゼ。スペイン語でムセオ。フランス語ではミュゼという。

この他に絵画館をピナコテークと呼んでいる。かつて、ドイツに遊学した折に、ミュンヘンのアルテ・ピナコテーク（古い絵画館）を見学した。この絵画館に隣接して、ノイエ・ピナコテーク（新しい絵画館）がある。

ミュージアムの語源は、ギリシア語のムゼイオンからきている。ギリシア神話に由来する。ムゼイオンはムーサの神殿の意味である。ラテン語のムーサは、英語のミューズ、またはミュゼのこと。ミューズは女神たちである。（ムーサイはギリシア語、ムーサーは英語）

ムーサーのイメージを描いた絵がある。（図一）

時代が経て、ローマ神話になると、ミューズの九人の女神たちは、それぞれの知的活動をつかさどることになる。このムーサの女神を崇拜する学校があったという。このことからムゼイオンは教育、研究施設のことをさした。このムゼイオンがミュージアムの語源である。



図1 ムーサーのイメージ画

四、ミューズの女神たち

芸術のミューズの女神たち（ラテン語のムーサ）は、文芸、音楽、舞踊、哲学、天文などを司る。父親はゼウスで、母親は記憶の女神ムネーモシユネー。住んでいたのはヘリコーン山である。成長した女神たちは歌に興じていると、女神アテナ（アテーナー）が訪れたという。（図2）アテナの英語名はミネルヴァで、都市国家アテーナイの守護神という。トロイア戦争のときにギリシア側を応援し勝利に導いた女神である。アラクネーと技芸の術を競ったために、ヘリコーン山のミューズを訪れた。

ミューズたち九人の名前と属性は、次の通りである。（表1）



図2 アテナがヘリコン山の
ミューズを訪れる

ミューズの女神の司る属性(領域)と持ち物(表1)

名称	属性	女神の持ち物
カリオペー	叙事詩	書物, 月桂冠, 楽器
クレイオー	歴史	巻き物, 石板とペン
エウテルペー	抒情詩	笛と花輪
タレイア	喜劇	喜劇の仮面, 羊飼の杖
メルポメネー	悲劇	悲劇の仮面, 靴
テルプシコラー	歌と舞踏	豎琴, 花の冠
エラトー	抒情詩	豎琴, キューピット, 白馬
ポリュヒュムニアー	讃歌	オルガン, リュート
ウーラニアー	天文学	天球儀, コンパス

図表にある九人の女神は、カリオペーを最初に、生まれ順である。

カリオペー(図3)は、歌の女神だ。竖琴をかきならしているのが、音楽の神アポロ。

クレイオー(図4)は、歴史学の女神だ。書板と鉄筆を手にして立つ女神。史実を記録しようとしている。あるがまゝを書く年代記作者の姿を示す。

エラトリー(図5)は、抒情詩と恋愛歌の女神だ。手に竖琴を持ち、白鳥がシンボルである。

エラトリーの女神は、竖琴を奏で、手前には楽譜がある。譜面には音が記録されている。壁にはリュートにトランペットが置いてある。トランペットは現代の形状でなく、円形であった。これらの楽器は乙女が使用するものである。シユロの葉が一枝、大きく描かれ、名声と勝利を表わしているという。中央上部に月桂樹の花輪に囲まれた、白鳥の絵がある。白鳥は歌を愛し、美しい声で歌う。詩人の魂が白鳥に変身したともいわれる。このように歌人や詩人のシンボルになっている。

五、美の女神と芸術について

アプロダイテー(ヴィーナス)とミューズ(図6)により、人間界に芸術を伝えた、寓意と表象図がある。なかなかの発想であり、関心させられる。アプロダイテーはギリシア語であり、ヴィーナスは英語名。

図6は造形芸術の関連図ともいうべきエンブレムだ。画面中央にFORMA(形)の文字がある。これより上部が形而上の非現実の世界で、理念上のものである。中央は貝殻より生まれた美の女神アプロダイ



図3 カリオペーとアポロ



図4 クレイオー

テールがいる。右にミューズ、左にケンタウロスが描かれている。

ローマ以後ルネサンスにかけて、ヴィーナスが崇拜された。プラトーンによる二つの美「天上の美」と「世俗の美」を表わす女神像として、二人の女性の姿で描かれる。前者は汚れなき裸体。後者は衣服を身にまといっているものだ。図6の中央に描かれた裸体は、そのためである。

ケンタウロスは上半身は人間で、下半身は馬の怪物だ。野獸的性格で、破壊と建設を繰り返している。

もと／＼芸術も同じ過程をたどる。ケンタウロスの中でも、賢者ケイローンは医術や学芸にすぐれていた。

絵の左の標示には VERITAS (真理) とある。右は DIVINATIO (神性) である。中央より下部は、形而下であり、現実の物質界を示している。台座の一段上に VITA HYMANA (人間の生命) の



図5 エラトー

美術館に心の安らぎをみる

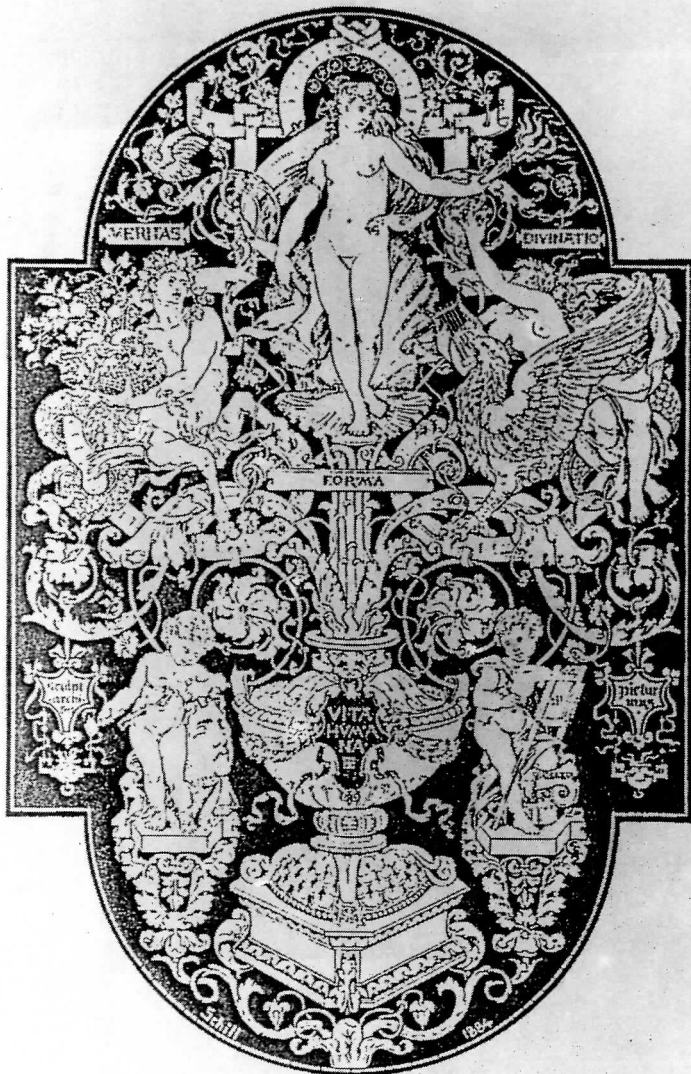


図6 アプロディーテーとミュージズ

文字がある。右にはイーゼル上に絵があり、左に彫刻がある。

芸術の女神ミューズは、アプロダイターより松明（たいまつ）を受けとる。松明は靈感を意味している。左手に竖琴を持ち、鷲に乗って地上界に舞い降りる。天上界の音楽が伝わり、地上の楽園に芸術の花が開く。これが芸術の源泉である。

六、長野県における美術館の数

紙面の都合で、世界の美術館については省略したい。特に西洋におけるコレクションに関する物語は沢山ある。これらについては、いずれの機会に書いてみたいと思う。

さて、山国信州は「山紫水明の地」である。自然そのものが美しく、人工的な絵画や彫刻など、その造形美も影が薄れるほどである。また、人口密度も低いため、美術館の数は少ないように思われがちだ。ところが『信州の美術館』（鈴木潔、保育社、昭和六十年）によれば、

「長野県には美術館を含む博物館施設が一一三〇余りある。これは東京、北海道に次いで多い。郷土が生んだ芸術家を記念するもの、中央で成功した実業家が故郷へ錦を飾ったものなど、動機はさまざま……訪れる側にとつてはたいへん好ましい状況になってきた。」

先日のNHKテレビによれば、その数すでに二百を越えているという。冬季オリンピックがらみで「志賀高原ロマン美術館」の建設も進められ、筆者も建設委員の一人である。

ところが『長野県美術大事典』（小崎軍司編著、郷土出版社、昭和六十一年）には、

「長野県内には、一九八六年（昭和六十一年）現在で、美術館が三〇館近くある。数を特定できないの

は、個人経営の画廊のような展示スペースを持つて《美術館》と称しているところがいくつかあるからだ。それらは、やがて大規模な館に発展するかもしれないし、また、突然つぶれてしまうことだって予想できる。従って社会的なというか、公的存在として、それらをどう位置づけてよいか迷うからである。

人口二百十数万人の県内に約三〇の美術館があるということは驚くべき数字だ。」と出ている。

美術・博物館法による、学芸員とか、規模の大きさからみれば、三十館とあるが、私立美術館や博物館、小規模も含めれば、その数は二百を越えているということである。

七、信州の美術館の歩み

大規模美術館で古い歴史を持ったものは、諏訪市美術館だ。戦時中の片倉製糸が建てた片倉館付属の古館が、戦後の財閥解体により、民間の有志によって始められた。このように、長野県の美術館は戦後になってから歩みはじめたものである。

昭和三十三年穂高町に碌山美術館が開館した。本学美術デーには、ここを訪れる。また本学の所在地上田市では、昭和三十七年山本鼎記念館が開館する。農民美術と大正デモクラシーによる、自由画運動による、児童画教育に与えた影響は大きい。学生達のレポートの一つに「山本鼎記念館見学記」がある。

昭和四十一年に長野県信濃美術館が開館する。

昭和四十三年、本学理事長北野次登氏とその先代北野吉登氏の父子コレクションによる、北野美術館が開館した。前出、本学美術デーには、同館にも足を運ぶ。一般教養の西洋美術史で学んだ、有名作家の作

品があり、学生達も感激する。また、平成六年度、本学開放講座「美術館めぐり」でも、次に紹介する信州新町美術館とともに見学したことを、はじめに書いた。

北野美術館と同じ、昭和四十三年に信州新町に町立美術館が開館。更に同館は昭和五十七年新館が完成して移動した。

昭和四十五年、上田市別所に常楽寺美術館ができる。

昭和五十年には、小諸市に小山敬三美術館が開館。

昭和五十一年、小布施町に北斎館。

昭和五十四年、上田市に信濃デッサン館。その後も、私立、公立と美術館が続々と開館して、現在に続く。

七、上田市にある美術館

上田女子短期大学近くにある、美術館を調べてみた。

まず上田市内には石井鶴三美術館がある。昭和六十年に旧市立図書館が新館に移館した後に開館している。石井鶴三は東京芸大の教授。また日本芸術院会員でもある。上田彫塑会の講師をつとめ、教え子も多い。

上田市城址公園内に山本鼎記念館がある。昭和三十七年の開館というから古い。児童自由画教育運動、農民美術運動など、前述の通りである。

上田の市街地から離れ、短大近くの独鈷山前山寺の隣接地に、信濃デッサン館がある。館長の窪島誠一郎氏は、文筆家としても知られている。開館は昭和五十四年という。夭折した村山槐多、関根正二らの作品が展示してある。村山も関根も、上田や長野に滞在したことがあるという。

別所温泉には、常楽寺美術館がある。昭和四十三年の開館だ。特に古瓦のコレクションが有名である。また、倉田白羊の油彩画も面白い。白羊は農民美術研究所の副所長になって、上田市に転居した。

この他にも上田市上野には、上野美術館がある。茶道具コレクションの展示が中心になっている。

上田市国分には、木彫館がある。農民美術の制作者尾沢千春、敏春父子によるものだ。世界各地の木彫人形や自作の人形が展示されている。

八、おわりにあたって

「朝日新聞」の日曜版（昭和五十五年～五十七年）に、北海道から沖縄まで、ユニークな美術館、八十七館を巡り、連載されたものがある。これが後に『ユニークな美術館めぐり』（朝日新聞社編、昭和五十七年）となってまとめられる。地区別にみると、東京都二十二館。次いで多いのが長野県の八館。静岡県五館。兵庫県と岡山県が四館。北海道、京都府の三館と続く。この本の中で、長野県で選ばれた八館は、上田市山本鼎記念館。軽井沢高輪美術館。北野美術館。信濃デッサン館。信州新町美術館。北斎館。八ヶ岳美術館。碓山美術館である。

本学開放講座の「美術館めぐり」に選んだ北野美術館と信州新町美術館がある。また、美術デーの碓山

美術館。美術史レポートの山本鼎記念館も含まれている。何かほっとする思いがあるのである。

一昨年、上田市が召集した「上田市の明日を考える会」に、短大を代表して参加する。そこで、上田市に美術館の建設を提言した。美術展のできる貸会場のスペースのあるもの。地元ゆかりの作家の美術品の蒐集と展示。いづれにせよ多額の資金を使うことになる。そこでユニークな美術館が登場するのである。人々がそこに集い、心に安らぎがみられる美術館の建設を願っている。

☆参考文献と図版出典文献

- 『美術館学入門』（井出洋一郎、明星大学出版部、平成五年）
- 上田女子短期大学『開放講座』（平成六年）「美術館めぐり」（山本秀麿）
- 『信州の美術館』（鈴木潔、保育社、昭和六十年）
- 『長野県美術大事典』（小崎軍司編著、郷土出版社、昭和六十一年）
- 『ユニークな美術館めぐり』（朝日新聞社編、昭和五十七年）
- 図1、『ミュージアムの見方・歩き方』（木村英夫著、七賢出版、平成四年）
- 図2『ギリシア・ローマ神話図詳事典』（水之江有一編著、北星堂、一九九四年）から使用する。
- 図3～図6『絵でみるシンボル辞典』（水之江有一編著、北星堂、昭和六十一年）「アレゴリーとエンブレム（寓意と表象）」（ウイーン、一八八二年）より掲載した。

